

【訂正分】

2025年ゴルフ場企業グループ&系列 コース・ホール数ランキング

一季出版(株)は、ゴルフ場業界紙・『隔日刊ゴルフ特信』にて毎年4月に、ゴルフ場企業の保有ランキングを発表している。

2025年4月1日時点でゴルフ場を保有する企業グループランキング（国内既設ゴルフ場のホール数基準）のトップは、2025年1月31日にアコーディア・ゴルフの親会社株式を5100億円で取得した平和グループ。

2大大手ゴルフ場企業が一つになったことから、コース数321コース、ホール数6822ホール（以下H）となり、内訳はアコーディア・ゴルフが和木GC（18H、山口）の取得と浜田GL（同、島根）の売却で前年と変わらず172コース3582H、PGMが一志GC（同、三重）と竜王GC（同、滋賀）の取得で前年比2コース36H増の149コース3240Hとなっている。

ゴルフ場運営会社として国内最大、保有ゴルフ場数ベースでは世界最大となった平和グループの誕生によって、2位以下のランクは繰り上がりなど変動している。

2位は市川ゴルフ興業グループで30コース567H、3位は西武グループで19コース423H、4位は東急グループで19コース387H。3グループとも前年より1ランクアップだが、この1年でゴルフ場売買の動きはなかった。

5位はシャトレゼと太平洋グループがともに19コース369Hで肩を並べた。シャトレゼはウィーゴCC（18H、長野）1コースが増えての19コースだが、9Hの規模縮小コースがあつて9

Hの増加だった。太平洋グループは前年と同じ規模だったが6位から順位が繰り上がった。親会社のマルハンから見ると、24年に9Hを別会社で運営始めたので今後の展開が注目される。

7～10位は、7位リソルグループ（前年8位）16コース333H、8位ユニマットグループ（同9位）18コース324HとGCEグループ（同9位）14コース324H、10位リゾートトラスト（同12位）14コース306H。

リゾートトラストは、2023年にGC金沢L（18H、石川）を取得し会員制リゾートホテルを建設する計画と表明。令和6年能登半島地震で休場していたコースについては復旧工事を行い25年4月に仮オープンした。クラブハウス解体跡地に会員制リゾートホテルの建設が始まり、会員権販売も開始した。完成前に会員権を販売できる強みを生かしている。

13位の東京建物グループは1960年開場の小山GC（18H、栃木）を株式取得により傘下に収め、前年比1コース18H増の13コース261Hとなり、前年から2ランクアップした。

以下のランキングで大きく変動があったのは、バンリユーゴルフで前年の13位から3コース63Hが減少し11コース207Hの保有となっている。

24-25年度は『2025年問題』を意識された時期となったが、アコーディア・ゴルフが平和に買収されたように、新たな局面を迎えた。コロナの収束に伴い人流が活発になり、訪日客（インバウンド）数は記録的な伸びを見せ、一時期ゴルフ場か

ゴルフ場企業グループゴルフ場保有ランキング推移(国内既設H数)

| ラン ク | 2000年 | | | 2005年 | | | 2010年 | | | 2025年 | | |
|---------|----------|------|-------|-------------|------|-------|---------------|------|-------|-------------|------|-------|
| | グループ名 | コース数 | H数 | グループ名 | コース数 | H数 | グループ名 | コース数 | H数 | グループ名 | コース数 | H数 |
| 1 | 西武グループ | 42 | 1,044 | ゴールドマン・サックス | 85 | 1,800 | アコーディア | 131 | 2,761 | 平和グループ | 321 | 6,822 |
| 2 | 日東興業グループ | 30 | 666 | ローンスター | 78 | 1,737 | PGMグループ | 123 | 2,691 | 市川ゴルフ興業グループ | 30 | 567 |
| 3 | スポーツ振興 | 30 | 585 | 西武グループ | 46 | 1,134 | オリックスグループ | 38 | 774 | 西武グループ | 19 | 423 |
| 4 | 東急グループ | 29 | 585 | 富士カントリーグループ | 19 | 477 | 西武グループ | 28 | 675 | 東急グループ | 19 | 387 |
| 5 | 日本ゴルフ振興 | 28 | 576 | 東急グループ | 24 | 468 | 市川造園土木 | 29 | 579 | シャトレゼ | 19 | 369 |
| 6 | 富士カントリー | 22 | 540 | 市川造園土木 | 20 | 396 | 東急グループ | 28 | 558 | 太平洋グループ | 19 | 369 |
| 7 | 地産グループ | 16 | 414 | 太平洋グループ | 18 | 351 | ユニマットグループ | 22 | 414 | リソルグループ | 16 | 333 |
| 8 | 緑堂グループ | 18 | 369 | ミサワグループ | 16 | 297 | 太平洋クラブ | 17 | 333 | ユニマットグループ | 18 | 324 |
| 9 | 大洋緑化グループ | 14 | 279 | 大洋緑化グループ | 14 | 279 | 明智GC・房総CCグループ | 10 | 297 | GCEグループ | 14 | 324 |
| 10 | 太平洋グループ | 13 | 261 | 新日本観光グループ | 9 | 243 | リゾートトラストグループ | 12 | 270 | リゾートトラスト | 14 | 306 |
| | | | | 外資系 | 188 | 4,050 | 外資系 | 320 | 6,838 | 外資系 | 80 | 1,647 |
| | | | | 韓国系 | 11 | 216 | 韓国系 | 45 | 900 | 韓国系 | 60 | 1,170 |
| | | | | その他外資 | 177 | 3,834 | その他外資 | 275 | 5,938 | その他外資 | 20 | 477 |

注: グループ名はランキング当時

【訂正分】

らの興味が外れていた国内外のファンドが日本のゴルフ場に注目。特に韓国系は訪日ゴルファーへの注目だけでなく、出口戦略としても交渉先として韓国企業同士の取引や提携が活発になってきている。

2025年4月1日時点で確認できたところでは韓国系が前年から2コース36H増で、60コース1170Hとなっている。その他外資ではアコーディア・ゴルフが国内資本となったことから173コース3582H減の20コース477Hとなっている。

ところで、国内のゴルフ場企業グループでは、一代でゴルフ場運営を増やしてきたオーナーから後継者にその舵取りが委ねられたグループがいくつもあり、今後のゴルフ産業、市場をどう読取り、展開していくかで国内ゴルフ産業が大きく動く岐路に立っている。

そしてゴルフ場経営は、コスト増とともに人口少子化をどう乗り切っていくかの課題もあり、別な選択肢として太陽光発電（メガソーラー）に活路を見出そうとする事業者も増えている。コスト面では解決策でもあるが、一部では地元の反対運動が起きたり、突然のゴルフ場閉鎖の知らせに反発して記者会見を開いたりするケースも出てきている。

ゴルフ場は広大な面積を使用しているだけに、街中の飲食店のようには開店・廃業で、簡単にリフォームするのが難しい。また、地方振興が叫ばれている中、ゴルフ場の貴重な観光資源、職場との意識も高まっており、地域との交流を活かした今後の施策を期待したいところだ。

本誌152ページでゴルフ場売買価格の平均を算出しており、アコーディア・ゴルフが5100億円もの金額で買収されたことで、現在でのゴルフ場売買市場の市場感が明確となってきた。同社のような収益性が2割を超える収益物件は高額な評価を得られるが、通常の地方部での収益性の低いゴルフ場は、メガソーラー向けの用地売却が収益を生むもので、ゴルフ場であっても韓国内での市場価格が高い韓国資本からの購入は、韓国からの集客も狙えて、メガソーラー向けよりも高い売却額を得られる市場となってきた。この市場性から国内外のファンドが韓国をはじめとする海外資本、メガソーラー向けの売買が多くなってきているものだ。

なお、バブル崩壊（平成3年＝1991年）以降の法的整理件数は表の通り。2015年以降の都道府県別法的整理ゴルフ場、2016年以降のゴルフ場売買事例一覧、2017年以降の経営交代、それに閉鎖ゴルフ場、ゴルフ場用地でのメガソーラー計画等の一覧は巻末資料に収録した。

法的整理件数等推移

| 年 | 件数 | 既設 コース数 | 建設 認可 コース数 | 負債 総額 (億円) |
|----------------|-----|------------|------------------|------------------|
| 1991(平成3) | 2 | | 2 | 4,066 |
| 1992(平成4) | 3 | 3 | | 1,626 |
| 1993(平成5) | 6 | 5 | 3 | 4,304 |
| 1994(平成6) | 3 | 2 | 1 | 237 |
| 1995(平成7) | 6 | 6 | | 2,120 |
| 1996(平成8) | 4 | 2 | 2 | 1,216 |
| 1997(平成9) | 9 | 29 | 4 | 4,501 |
| 1998(平成10) | 11 | 14 | 2 | 5,094 |
| 1999(平成11) | 27 | 20 | 9 | 6,416 |
| 2000(平成12) | 25 | 26 | 4 | 12,076 |
| 2001(平成13) | 57 | 63 | 3 | 14,464 |
| 2002(平成14) | 98 | 130 | 5 | 30,239 |
| 2003(平成15) | 80 | 132 | 3 | 20,192 |
| 2004(平成16) | 82 | 110 | 4 | 19,239 |
| 2005(平成17) | 71 | 80 | 4 | 14,004 |
| 2006(平成18) | 52 | 59 | 2 | 5,781 |
| 2007(平成19) | 41 | 48 | 0 | 6,199 |
| 2008(平成20) | 30 | 32 | 0 | 3,949 |
| 2009(平成21) | 26 | 29 | 0 | 2,656 |
| 2010(平成22) | 26 | 27 | 0 | 1,485 |
| 2011(平成23) | 26 | 27 | 0 | 2,085 |
| 2012(平成24) | 26 | 44 | 0 | 3,110 |
| 2013(平成25) | 10 | 10 | 0 | 672 |
| 2014(平成26) | 13 | 14 | 0 | 525 |
| 2015(平成27) | 17 | 19 | 0 | 1,111 |
| 2016(平成28) | 16 | 16 | 0 | 744 |
| 2017(平成29) | 9 | 9 | 0 | 329 |
| 2018(平成30) | 13 | 15 | 0 | 539 |
| 2019(平成31・令和元) | 6 | 6 | 0 | 547 |
| 2020(令和2) | 4 | 4 | 0 | 227 |
| 2021(令和3) | 3 | 3 | 0 | 107 |
| 2022(令和4) | 7 | 7 | 0 | 59 |
| 2023(令和5) | 7 | 6 | 0 | 262 |
| 2024(令和6) | 2 | 2 | 0 | 41 |
| 2025(令和7) | 3 | 3 | 0 | 123 |
| 計 | 821 | 1002 | 48 | 170,356 |